

大川村プロジェクトの加速化～拠点施設を核とした周遊ルートの形成～

観光・交流部会におけるこれまでの主な取組

H27年度 新たな観光コンテンツの構築に向けた検討・実施

- 山岳観光の推進（登山道の整備・点検、登山パンフレットの作成）
- ロゲイニングを活用した企業向け研修プログラムの開発

H28年度 「大川村白滝の里観光交流基本構想」及び「アクションプラン（19）」の策定

- ⇒観光交流の受入施設を整備する方向で取りまとめ（山岳観光を主とする観光拠点施設として位置づけ）
- 山岳観光の推進（モニターツアーの実施）
 - ロゲイニングを活用した企業向け研修（モニター）の実施
 - 早明浦ダム湖面を活用したウォーター・サイクルスポーツイベントの開催

H29年度の主な取り組み

◆ 大川村白滝の里観光交流アクションプラン（A P）の磨き上げ（重点化）

○村内に経済効果が及ぶよう、その受け皿になる拠点施設（白滝の里、結いの里）でアクションプランをカテゴライズし、人的・時間的な制約がある中、効果を発現できるような優先順位を付けて絞り込み

重点化したA P

具体的な取り組み



観光資源を活用した体験型観光の推進

- **本格的に動き始めた山岳観光**
【石鎚山系連携事業協議会への参画】
・石鎚山系「ロゲイニング」調査の実施、パンフレット作成(H30.3) YAMAPアプリ掲載 (H30.3)
・日本ロゲイニング協会へのコース登録に向けた調整 (3月申請予定)
【白滝の里山歩きツアー】8回開催 (うち4回中止) 延べ16人
- サイクリングイベントの実施 (H29.11.25～26 5人)
- おやこで星空観察 (H30.2.11 予定)

旅行商品の開発

- **新たな商品開発にチャレンジ**
・四国のてっぺんラリー(H29.7)
・子供をターゲットにしたお山の大将ツアー造成に向けた検討
・インバウンド観光事業者のモニターツアー (H30.2～3 予定)

観光交流関連施設の整備

- 白滝の里改修について、公社の中での検討

都市との交流

- イベント、交流会の開催
・謝肉祭(H29.11.3 1500人)・大川村同窓会(H29.5.3 44人)
・ふるさとまつり(H29.5.3 約150人)・瀬戸内交流(H30.1.14 40人)
・大阪都市との交流 (H29.4.22,23 45人)

食の発掘と活用

- 大川村でしか食べられないメニューの開発 (H29～)

旅行商品の開発

- 湖面を活用した体験メニュー (S P) の企画立案

○「白滝の里」と「結いの里」を連動させた周遊イメージを作成

◆ 観光コンテンツの現地確認

○アドバイザー (A D) による現地調査 (H29.12.27)

A Dからのアドバイス

◆ 新たな人材配置

○観光担当地域おこし協力隊 (1名) の採用

見えてきた課題

◆ 共通の課題

- ・メインリーダーとなる人材の確保・育成
- ・初動をしかける行政マン、現場で働くインストラクター商品を作るセールスマンが不足

◆ 個別の課題

- ・効果的な情報発信ができない
- ・受入のキャパが小さく採算性が低い
- ・恒常的に提供できる山岳プログラムがない
- ・冬期の積雪など通年対応が難しい
- ・ブナの群生は特コンテンツになる
- ・平家平等の眺望は素晴らしいツアー造成も可能

・魅力ある商品への磨き上げ

- ・体験のバリエーションを増やす必要がある

・白滝の里の各施設老朽化

- ・施設の老朽化が進み一般ツアーの受入は難しいが子供をターゲットにした体験ツアーに十分活用できる

・新たなメニューを開発するため、生活支援部会との連携が必要

- ・シニアも対象に山旅弁当等のメニューの工夫が必要

- ・景観、快適性、設備が課題

今後の進め方

人材の確保・育成

- 地域おこし協力隊の更なる積極的な募集
- 民間活力の導入

情報の発信・提供

- 村・大川村ふるさとむら公社のHPの内容充実 SNSを活用した情報発信
- 結いの里から白滝の里へ観光客を誘導

旅行商品の磨き上げ

- アドバイザーの助言を活かした山岳観光などの磨き上げ・商品化
- 広域で連携した商品づくり (嶺北地域、石鎚山系)
- 魅力ある体験メニューの造成
- ダム湖面を活用した体験メニューの開発

施設の改修

- ターゲットなど戦略を明確にした施設の大規模改修の実施

新たなメニューの開発

- 生活支援部会と連携した大川村ならではのメニュー開発

目標

平成32年度…白滝の里宿泊者数

1,800人/年

ポスト幕末維新博・れいほく博を見据え、拠点施設を中心とした周遊ルートの形成